

②対象地区の公共・公益施設の立地状況

- 対象地区の南東側から東側の一帯は、対象地区に隣接する地域の公共施設も含め、行政の中核機関や文教施設等が集積するエリアとなっている。対象地区内の南東側には、宜野座村役場や宜野座小学校・幼稚園が立地している。また、キャンプ・シュワブ関連再編関連特別事業の活用により、「ふれあい交流センター」の整備が行われており、令和5年12月の完成をめざしている。なお、村役場の向かい側には保健相談センターが立地しているが、老朽化が進んでおり、老朽化した中央公民館機能とともに、ふれあい交流センターに機能移転を図っていくこととなっている。この他、対象地区に隣接して文化センター（がらまんホール）が整備されているとともに、地区東側に宜野座高校が隣接し、グラウンドやプールが対象地区内に含まれている。



▲村行政の中核を担う宜野座村役場が立地



▲宜野座村保健相談センター（機能移転を予定）



▲宜野座村立宜野座幼稚園・宜野座小学校



▲地区内に宜野座高等学校のグラウンドが立地



▲宜野座村ふれあい交流センター配置図



▲建設中のふれあい交流センター
（宜野座小学校裏手の村道中学校線より）



▲建設中のふれあい交流センター（総合グラウンド側より）



▲対象地区に隣接し、文化センター（がらまんホール）が立地

- ・対象地区中央付近の東側よりには総合グラウンドや野球場、宜野座ドーム、多目的スポーツ施設といったスポーツ・レクリエーション施設が集積している。本村では、阪神タイガースのキャンプを誘致し、2003年の開始以降、2月の春季キャンプ時には県内外から多くの来訪者で賑わいをみせている。この間、野球を中心としたスポーツ施設の充実に力を注いできており、多目的屋内施設として「宜野座ドーム」の整備を図るとともに、野球場についてもスコアボードの改修（パネル式からLED電光式に改修）、芝生席であった1・3塁側を座席へと改修している。また、ブルペンやトレーニングルームが整備された多目的施設を整備している。本村では、誘致だけでなく積極的なインフラ投資を行うことにより、12球団でもトップクラスの人気を誇るタイガースファンが多数訪れる、人気のキャンプ地として生まれ変わっており、経済効果も大きい状況にあるが、キャンプ時期には駐車場の不足が課題となっている。
- ・総合グラウンドはキャンプの際に内野練習等にも利用されているが、老朽化も見受けられ、過年度計画においては、新たな陸上競技場の整備も計画されている。
- ・野球場と総合グラウンドの間には、中央公民館が立地しているが、老朽化がみられ、ふれあい交流センターへの機能移転が図られることとなっている。また、隣接して学校給食共同調理場跡地があるが、これらの土地についての跡地利用の検討が求められている。



▲宜野座村総合グラウンドの全景（令和2年3月の『宜野座村中心地区整備計画』においては、「野球を主な利用種目として計画を行う」という位置づけがされており、トラックは廃止・機能移転されるプランとなっている。）



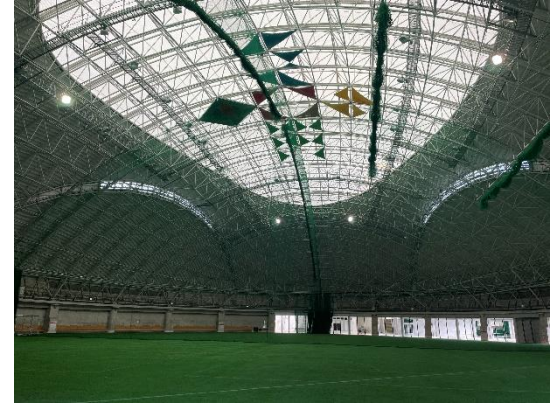
▲宜野座村野球場



▲宜野座バッティングセンター



▲宜野座ドーム



▲宜野座ドーム（屋内の様子）



▲宜野座村多目的スポーツ施設



▲宜野座村多目的スポーツ施設（1階の様子）



▲キャンプを訪れた来訪者

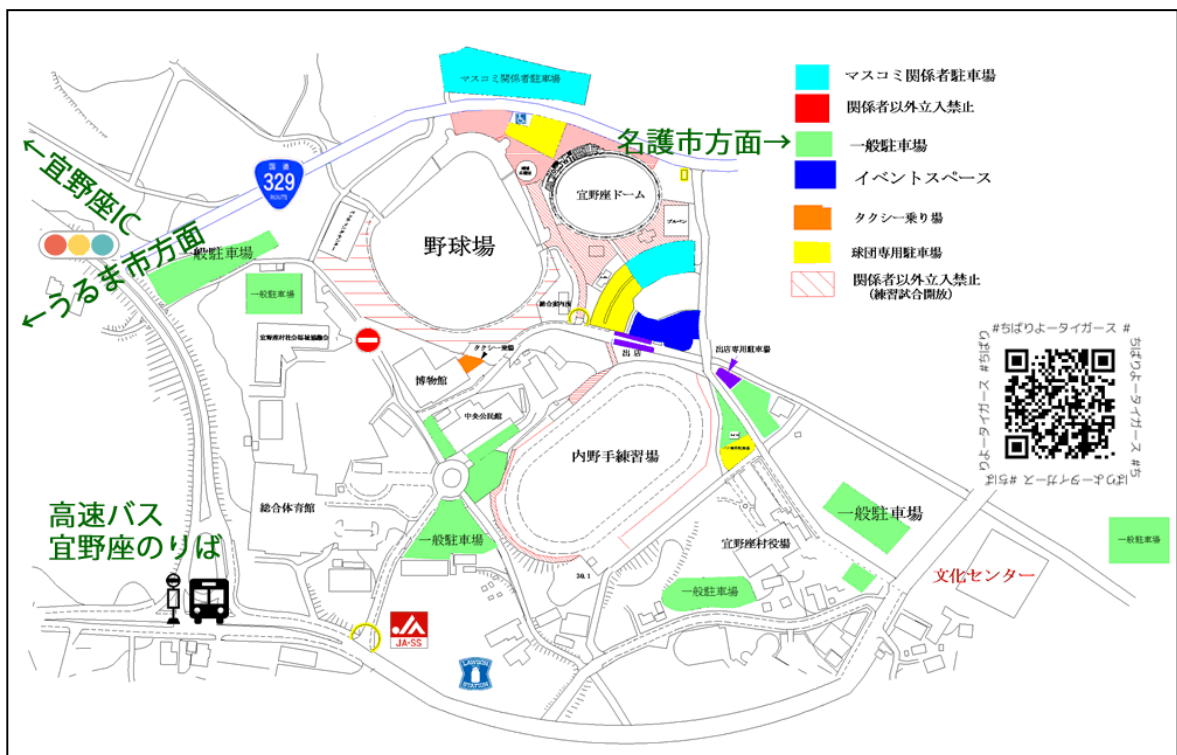


▲周辺の駐車スペース・公共施設駐車場は
来訪者のための一般駐車場として活用

参考：阪神タイガースキャンプの観戦状況・イベント会場等の様子



資料：「阪神タイガース公式サイト（春季キャンプ 2023）」、宜野座村 HP「応援！阪神タイガース」



資料：阪神タイガース 2018 年春季キャンプ時の無料一般駐車場（ホームページ GINOZA 無料駐車場宜野座村野球場）



▲中央公民館（ふれあい交流センターに機能移転した後は解体予定。跡地利用は未定）



▲学校給食共同調理場の跡地（中央公民館同様、跡地利用は未定）

- ・対象地区中央付近の西側よりには、農村公園が立地しており、農村公園を中心にして地域福祉センターや障害者福祉センターといった福祉施設、総合体育館や博物館などが立地している。
- ・宜野座村農村公園及び総合体育館、村立博物館の一带では、毎年10月に『宜野座村まつり』が開催されており、村内外から多くの人々が訪れる一大イベントとなっている。宜野座村まつりは二日間に渡り実施され、ステージショーや飲食店の出店などの他、おきなわ振興特別推進市町村交付金を活用した『美ら島花火大会』と同時開催されており、盛大な花火の打ち上げなどが行われている。



▲農村公園の様子



▲農村公園の様子（村制施行70周年に際して整備された遊具）



▲宜野座村地域福祉センター



▲宜野座村障害者福祉センター



▲宜野座村総合体育館



▲宜野座村庭球場は現在駐車場として利用されている



▲宜野座村立博物館



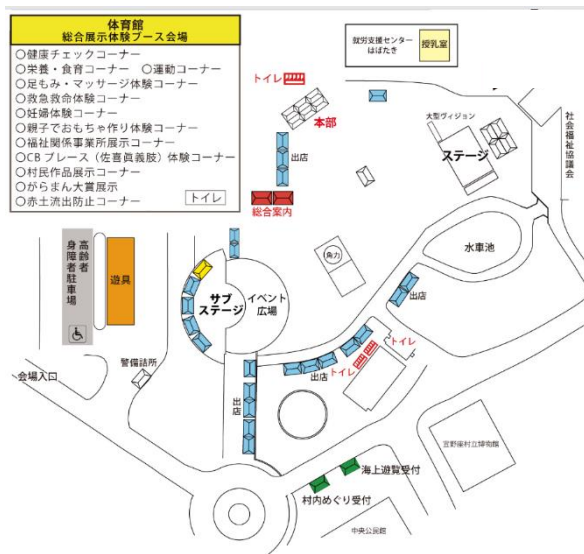
▲博物館向かいに立地する土地改良組合事務所

参考：宜野座村まつりの際の施設利用状況等

■ステージや花火大会などが行われ、村内外から多くの方が訪れている（宜野座村観光協会 HP より）



■会場レイアウト (2018 宜野座村まつりチラシより) ■駐車場案内 (2022 宜野座村まつりチラシより)



- ・対象地区北側には、国道 329 号宜野座バイパス沿いに JA のガソリンスタンドが移転しており、村民等の利便に供している。
- ・対象地区北西端には、福山区学習等共用施設や農村管理施設、コミュニティー館、児童公園など、福山区のコミュニティ機能が集積している。



▲国道沿いのセルフガソリンスタンド



▲福山区のコミュニティ機能が集積

③道路・交通の状況

- 対象地区においては、地区北側を東西方向に延びる国道 329 号バイパスが整備されており、村内外を結ぶ主要幹線道路となっている。また、対象地区南側には、村道に移管された村道宜野座中央旧国道線（旧国道 329 号）が通っており、村内のメイン道路であったことから、沿道には住宅や商業施設、郵便局等が立地しているとともに、村内を結ぶバス路線のバス停が整備されている。
- 対象地区内には、国道 329 号バイパスや村道宜野座中央旧国道線と各種公共施設等を結ぶ形で複数の村道が整備されている。なお、過年度計画においては、宜野座村の顔となるシンボルロードの整備や、村道の再編整理を図る案も示されており、その検討が求められる状況となっている。
- 国道 329 号バイパスの開通を機に、宜野座 I C アクセス路の一部が村に移管されており、宜野座インターチェンジ線となっている。なお、宜野座インターチェンジ線と村道宜野座中央旧国道線の交差部に高速バス停が立地しているが、高速バス停の位置について、過年度計画では国道 329 号バイパスに移設する案も示されており、検討が求められる状況となっている。



▲国道 329 号バイパス



▲宜野座 IC アクセス路の出口付近（国道 329 号バイパス、宜野座インターチェンジ線との合流部）



▲村道牛原 1 号線（ふれあい交流センター地下駐車場へのアクセス路となる）



▲村道牛原 1 号線（幅員が狭いことから、今後、拡幅や線形の変更についても検討が求められる）



▲宜野座中央旧国道線と村道中学校線の合流部分



▲村道中学校線（ふれあい交流センターのメインエントランス側アクセス路となる）



▲宜野座中央旧国道線



▲宜野座インターチェンジ線（高速バス停付近）



▲役場から野球場方向に延びる宜野座牛原2号線

④その他の地区内環境等

- ・対象地区内には宜野座のガン屋・慰霊之塔・しずたまの碑、村民憲章の碑や、記念モニュメント、案内サイン、噴水等が立地している。また、地区内は積極的に緑化が行われているなど、潤いのある良好な環境が形成されている。
- ・村道宜野座インターチェンジ線の西側は緑地等となっており、過年度計画において新陸上競技場の計画地となっている。現状では一部が更地となっており、阪神タイガースの春季キャンプの際には臨時駐車場として利用されている。
- ・対象地区内は起伏が大きく、国道 329 号宜野座バイパスの下を村道が通っている箇所も複数みられる。



▲宜野座のガン屋・慰霊之塔・しずたまの碑



▲新里善助翁之像と宜野座村民憲章の碑



▲宜野座村総合運動公園の記念モニュメント



▲記念モニュメントの脇にある公園内案内板
(運動施設や駐車スペースの位置を示している)



▲農村公園内の池（水は抜かれている）



▲宜野座村平成記念モニュメント



▲宜野座牛原 2 号線は役場各課により緑化が行われている



▲更地となっている新陸上競技場計画地の一部



▲国道 329 号宜野座バイパスから南側を臨む
(地区内は起伏が大きい状況にある)

- ・宜野座ドーム北側を流れる宜野座福地川の中流部周辺は走川橋付近におけるカワセミの生息やカー周辺の植物の育成など、豊かな自然が残る場所となっており、近隣のニーブガー・古島ガー周辺はサガリバナの自生地が残されている貴重な湿地環境となっている。
- ・『宜野座村地域資源活性化プラン』（平成 24 年 1 月）では、歴史資源整備計画の位置づけで「ニーブガー・古島ガー周辺の整備計画（案）」が示されており、検討が求められる。



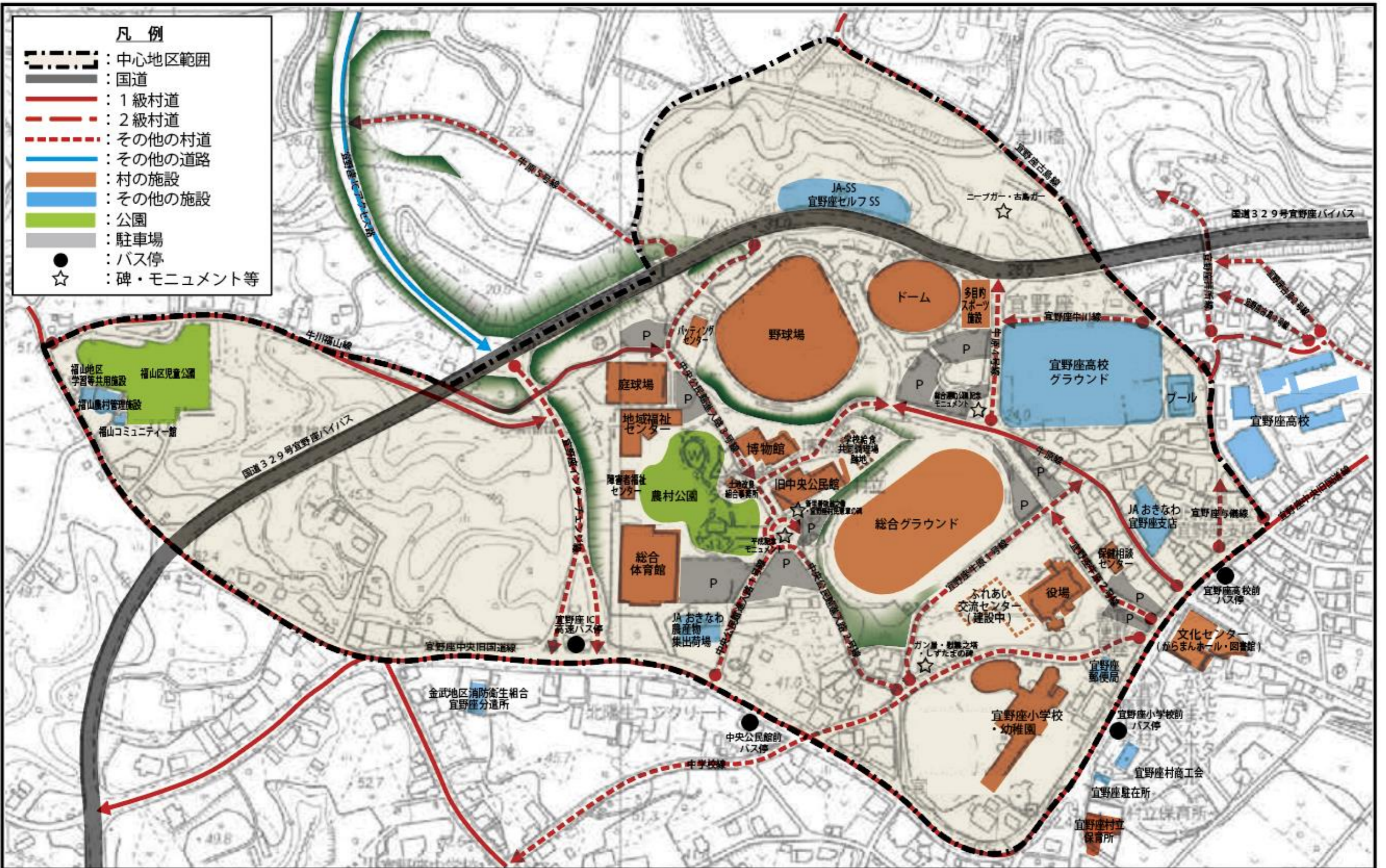
▲ニーブガー・古島ガーの周辺一帯

表 3.2-1 ニーブガー・古島ガー周辺の整備計画(案)

整備箇所	整備内容(案)	施設(案)
ニーブガー・古島ガー周辺	<ul style="list-style-type: none"> 古島ガーから流れる水に親しめるエリアとして石張水路、水辺の生き物を観察するデッキ等を整備する。 また、サガリバナを自生地であるニーブガー周辺に植栽し南国の雰囲気を楽しめる鑑賞エリアとして整備する。 	自然観察デッキ、サガリバナ観察園路、階段工、石張水路 サガリバナの植栽
芝生広場・斜面広場	<ul style="list-style-type: none"> 村民の憩いの場として、一年を通じて花が楽しめるよう四季折々の花の植栽を行い、芝生広場、東屋、ベンチ等を整備する。 	散策園路、東屋、築山、木橋、階段工、ベンチ、四季折々の花の植栽



図 3.2-1 全体整備イメージ



3. 本島北部圏域・中部圏域における類似施設の整理

対象地区において計画されている大規模公共施設として、過年度計画では新陸上競技場の整備が検討されており、現総合グラウンドについても跡地利用として野球を中心とした利用を検討していく方向性が示されている。一方で、「宜野座村公共施設等総合管理計画」との整合性を図る観点や、公共施設管理コストの増大も懸念される状況にある。

また、近年ではスポーツへの関心が高まっており、県内自治体においても多くのスポーツ施設が整備・計画されている状況にあり、類似施設が多く整備されることによる競合も懸念される状況にある。

そのため、本島北部圏域・中部圏域において近年整備・計画されているスポーツ施設について、その概要を把握・整理し、今後の施設整備の検討に役立てていくものとする。

市町村	整備（計画）内容	備考
国頭村	<p>【くいなエコ・スポレク公園施設機能強化事業】（事業中）</p> <p>「くいなエコ・スポレク公園施設」は沖縄北部特別振興対策事業及び米軍基地所在市町村活性化特別事業により整備、平成19年4月に供用開始されているが、くいなエコ・スポレク公園施設内の陸上競技場の3種公認に対応した全天候トラックの改修、野球場・陸上競技場のスタンドの膜屋根工事、野球場の防球ネット工事を実施し、スポーツキャンプ、大会等にも対応可能な施設を整備する。</p> 	北部振興事業
名護市	<p>【スポーツコンベンション施設機能強化事業】（事業中）</p> <p>名護21世紀の森公園内のサッカー・ラグビー場をスポーツキャンプ、大会等にも対応可能な北部地域の核施設として機能強化。</p> <p>北部唯一のラグビー競技施設としてプロチームを含めたキャンプや大会の誘致、既存周辺施設も活用したサッカー等の大規模な大会の誘致、北部地域の競技人口増加及び競技レベル向上を目指したスポーツイベントの開催による、スポーツコンベンションによる地域活性化を図る。</p>	北部振興事業
本部町	<p>【本部町総合型地域スポーツ拠点整備事業】</p> <p>本部町では、“ウェルネスのまちづくり”を掲げ、健康をテーマとしたまちづくりを進めており、核となる既存の町営陸上競技場を、全天候型の公式陸上競技場として整備し、村内の他の健康増進施設や観光施設と連携させた、より充実した合宿が可能な町として合宿を誘致するなど、村内の関係機関の連携のもとでスポーツ振興を通じた観光振興を図る。</p>	北部振興事業
恩納村	<p>【赤間総合運動公園機能高度化事業】</p> <p>豊かなロケーションと地理的条件を持つ恩納村の赤間総合運動公園において、観客を含めた施設利用者等の利便性を向上させる駐車場と、運動施設を補完し健康づくりにも資するウォーキングロードを整備することにより、北部の周辺市町村と連携したさらなるスポーツキャンプの誘致、各種イベントの開催を行い、地域経済の活性化、定住環境の向上を図る。</p>	北部振興事業

市町村	整備（計画）内容	備考
金武町	<p>【金武町陸上競技場】（金武町総合型地域スポーツ拠点整備事業、金武町陸上競技場機能高度化事業）</p> <p>既存の町営陸上競技場は経年劣化による排水能力の低下が著しく、各種大会等の実施に支障が生じている上、土質の競技場のため、各種大会の強化練習等を町外の全天候型舗装の競技場に依存するなど町民負担が大きくなっていったことから、既存の町営陸上競技場を耐久性及び排水性の高い全天候型舗装の競技場へ改修し、金武町の総合型地域スポーツ拠点として整備することにより、定住条件の整備を図る。</p> <p>北部地域南エリア唯一の3種競技場である金武町陸上競技場を一層有効に活用していくため、救護室、更衣室等を備えたクラブハウス、夜間照明施設及び駐車スペース等、障害者にも配慮した機能高度化を行う。</p> 	北部振興事業
	<p>【金武町多目的屋内運動場施設整備事業】</p> <p>金武町ギンバル訓練場跡地に、天候の影響を受けない多目的屋内運動場を整備し、大規模な大会やプロスポーツ等の合宿の誘致によるスポーツコンベンションの拠点及び医療施設と連携したプロスポーツリハビリ・医療ツーリズムの拠点とする。</p>	北部振興事業
	<p>【金武町フットボールセンター】</p> <p>北部振興事業（やんばるフットボールセンター整備事業）及び、日本サッカー協会（JFA）が行ってきた「都道府県フットボールセンター整備助成事業（現 JFA サッカー施設整備助成事業）」により整備。ギンバル訓練場の返還跡地利用として、平成 28 年 2 月に完成。JFA（日本サッカー協会）公認の人工芝のピッチと天然芝のピッチをそれぞれ一面ずつ整備。</p> <p>天然芝 1 面：14,949 m² 人工芝 1 面：10,600 m² クラブハウス（医務室、会議室、更衣室、シャワー室）</p> 	北部振興事業、都道府県フットボールセンター整備助成事業
	<p>【金武町ベースボールスタジアム】（金武町野球場整備事業）</p> <p>平成 23 年 12 月にオープンした天然芝の野球場。ギンバル訓練場跡地利用計画による事業展開と連携したスポーツ施設の運営の一環として、県内外からのキャンプ・合宿等の受け入れ、近隣市町村との連携交流を図る野球大会の開催等及び住民への健康福祉面からの対応に必要な野球場施設を整備し、地域の活性化、観光産業の振興（リゾート拠点の整備）及び定住条件の整備を図ることを目的とし、北部振興事業により整備されている。</p> <p>内野は甲子園球場と同じ黒土で、外野は天然芝（ティフトン）。ラバーを貼ったフェンスで囲まれた両翼 100m、中堅 122m のフィールドは硬式にも軟式にも対応。最大 2,142 人を収容できる観客席と電光掲示板などを備えた本格的なつくりが特徴。</p> <p>東北楽天ゴールデンイーグルスや韓国のプロチーム KIA タイガースなど、プロ野球球団や大学の野球部が春季キャンプなどで活用。</p> 	北部振興事業

市町村	整備（計画）内容	備考
嘉手納町	<p>【嘉手納野球場建替事業】</p> <p>2023年度より建替え工事を開始、2025年オープンを予定。3階建て、両翼100m、センター122m、1・3塁側に人工芝のブルペンを配置。屋根付きバックネット裏の観客席は1,026席で、球場全体の収容人数は約3,000人。電光掲示板や夜間照明なども整備。県内では珍しい全面人工芝により、高校やプロ野球の公式戦に対応。</p> 	<p>嘉手納飛行場等周辺まちづくり支援事業の一環として、防衛省の補助金を活用</p>
沖縄市	<p>【多目的アリーナ】</p> <p>多種多様なイベントに対応するため、観客からの近さや角度を含め、観戦環境の向上にこだわった設計になっている。サブアリーナやコンコースも配置しており、災害時にはアリーナ全体で県の広域物資拠点（一次拠点）の役割も果たすことになる。</p> <p>2023年8月から9月にかけてフィリピン・インドネシアとの共催で開催される「2023年 FIBA バスケットボール・ワールドカップ」の会場となっている。</p> 	<p>再編推進事業補助金等を活用</p> <p>全体計画・実施設計：特定防衛施設周辺整備調整交付金（9条）</p> <p>解体工事：再編推進事業補助金</p> <p>工事：再編推進事業補助金、沖縄振興特定事業推進費補助金、沖縄振興特別推進交付金</p>